

『宇都宮上町教会新会堂建築の現状』

宇都宮上町教会 澤田武

主日礼拝準備が整った教会堂を、突然東日本大震災が襲いました。教会のシンボルであります赤い屋根の十字架塔が、大きく、ゆっくりと揺らされ、今にも折れてしまうのではないかと避難した園庭で、預かり保育の子供たち、幼稚園の先生方と祈りつつ見つめていました。幼稚園舎の2階にあります教会堂の外壁、礼拝堂内の壁も崩れ、礼拝堂は粉塵が満ちて、それまで見たこともない光景となっていました。私たちはこの時から、現会堂の応急復旧、復興のための新会堂建築へと歩み始めました。

2013年度教会総会にて、敷地内に新会堂新築をするのにあたり「新会堂建築の5つの視点」を提案、その趣旨に基づき、新会堂建築を進めていくことを決議致しました。以下総会資料より抜粋致します。

1. 主を礼拝し賛美するにふさわしい新会堂。

なによりも主を礼拝するにふさわしい会堂を第一に設計・建築する。高齢者、障害のある方への配慮。乳児や子供と保護者が共に礼拝を守れる会堂とする。

2. 新会堂は教団全体の祈りと献金によって建てられる。

教団東日本大震災救援募金に積極的に取り組む。使える什器、備品類は再利用する。

3. クリーンエネルギー・エコロジーに配慮。

完成後、太陽光発電設備、薪ストーブ設備（防火上断念）等の再生エネルギーを利用。日常の光熱費節減、災害時への対応を考慮した会堂とする。

4. 100年の安全・安心を得られる教会堂建築。

シンプルな構造。平屋建て、耐震強度1.5を確保する。緊急時必要とされる食料、毛布等を備蓄する。そのための施設の整備。避難施設となりうる会堂とする。

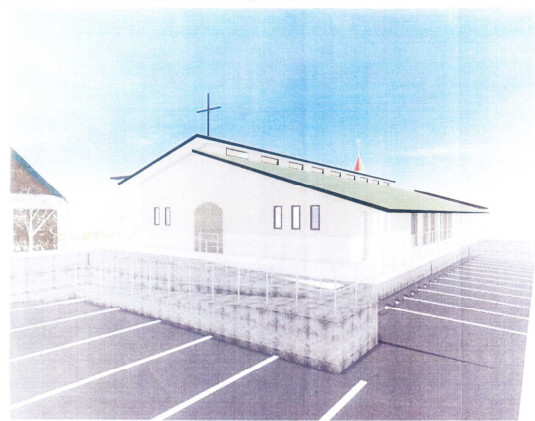
5. 地域と共に生きる教会。

地域に開けた教会堂として、福音を伝え、音楽、文化、教育、社会福祉などの分野で新しい挑戦をするための会堂とする。

現在、2回の教会総会をへて、この視点に基づき、協議・調査を重ねて、新会堂の建築確認申請を提出するところまで来ました。(5月19日)。6月中には、教会正面(西側)の地盤整備工事を始める予定です。細部についての打ち合わせ、建築献金を開始、実現へ向けての準備を始めます。

2014年度教会標語聖句「ここはあなたが『わたしの名をとどめる。』と仰せになったところです。」(列王記上8章29節b)この御言葉を新会堂建築のメモリアルとして掲げます。

皆さまのお祈りとご支援に感謝致します。



被災支援ニュース原稿 下館教会献堂式訪問

小林 祥人（取手教会 支援委員）

5月11日は茨城地区・下館教会の献堂式があり、それに参加してきました。全体で60名ほどの人数で、茨城地区の多くの教会・伝道所そして近隣の栃木地区からの出席もありました。新会堂と認定こども園舎を献げる喜びを全員で分かち合いました。

下館教会は、附帯の認定こども園（以前は幼稚園）と連携しつつ、長い間地域での信頼を築いてきました。しかし、東日本大震災は、その会堂に重大な損壊をもたらしました。これは、教会員のみならず地域に住む方々にとっても不安がよぎったに違いなく、大きな失意につながりかねないことだったはずですが、しかしそのような困難な中であって、というより困難だからこそ、下館教会は希望を持って歩む決断をしたのでしょう。その歩みは決して平坦ではなかったと推察しますが、教会員の皆さんと、こども園の先生たちのつながり、そしてその間に立ち続けた川真田正先生のご努力が、それを可能なものにしたのでしょう。献堂式では、どなたが教会員で、どなたがこども園の先生かわからないほどでした。ふだんからの連携・交わりが真摯に深いものであることを何より示しているでしょう。

飯塚拓也牧師（教区宣教部長・被災支援委員会統括主任）のメッセージに導かれ、秋山徹牧師（教区議長・被災支援委員会委員長）の祝辞に励まされたこの和やかで、またはつらつとした献堂式に、これからの下館教会・こども園の歩みを見る思いがしました。

下館教会献堂式に参加して

藤田 武敏（土浦教会）

赤を基調とした統一感のある明るい会堂での献堂式に参加させて頂きました。

東日本大震災で被災した後、全面建て替えられた会堂と幼稚園・保育園に迎え入れられた瞬間、主は今も強く生きておられることを、実感しました。茨城県の西に位置づけられる教会で、ゼロ歳からの保育に当たっておられ、献堂式にも小さなお子さんや、関係者が列席され、活発に活動されている雰囲気伝わってきました。以前、ある先生から、「一人のお母さんを教会に導くには、本当に大変です。」と聞いたことがあります。しかし、「急ぐことは、ありません。」下館教会があるから大丈夫です！明るい教会、広く、また設備が完備した保育園・幼稚園。それは、ハード面での感想ですが、同時に奉職される皆さまのバイタリティーとホスピタリティーを感じ、宣教の目的が必ず結実すると確信しました。献堂式では、「主の名をとどめる」ために、新しい会堂が用いられて行くよう、共に祈りました、神さまの祝福が豊かでありますように。



下館教会 外観

写真提供：荒井康雄